

研究・調査報告書

報告書番号	担当
7	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol dosing and total mortality in men and women: an updated meta-analysis of 34 prospective studies. 飲酒と男女の総死亡率 34 の前向き研究の最新メタアナリシス	
執筆者	
Di Castelnuovo A, Costanzo S, Bagnardi V, Donati MB, Iacoviello L, de Gaetano G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Intern Med. 2006 Dec 11;25;166(22):2437-45.	
キーワード	
アルコール、総死亡、前向き研究、メタアナリシス	
要 旨	
<p>背景: 適量のアルコール摂取と冠動脈疾患には負の相関があるが、死亡率との関連については意見が分かれている。飲酒と総死亡の前向き研究について、メタアナリシスを行った。</p> <p>方法: 2005年12月まで、PubMedで論文を検索し、さらにこれらの文献の参考文献で補完した。34の男女に関する研究より、1,015,835名の対象者と94,533名の死亡が観察された。データをプールして分別式多項式 (fractional polynomials) の重み付け回帰分析を行った。</p> <p>結果: 交絡因子を調整した検討の結果、男女共にアルコールと総死亡率の間にJ字型の関連がみられた。男性では1日4ドリンク(1ドリンクはアルコール 10gに相当)、女性では1日2ドリンクまでの飲酒は、総死亡との間に負の相関を示した。女性では最大18%(99%信頼区間13-22%)、男性では最大17%(99%信頼区間15-19%)の保護効果がみられた。これを超える飲酒量は、死亡率の上昇と関連した。死亡率との負の関連は、女性では男性よりも少ない飲酒量で消失した。交絡因子を調整したデータと、調整していないデータを比較すると、最大の予防効果は、19%から16%に低下したのみであった。男性においては、飲酒と総死亡率との関連の程度はヨーロッパより米国のほうが低かった。</p> <p>結論: 少量のアルコール摂取(女性で1日あたり1~2ドリンク、男性で1日あたり2~4ドリンク)と総死亡率の間に、男女共に負の関連がみられた。今回の知見により、過量飲酒の害を確認すると共に、適量飲酒の正味の有益性、少なくとも生存という意味合いでの有益性が示された。</p>	